成果の説明書

(氏名)　米本　清	(学部)　地域政策学部

1　重要事項

①災害を考慮した住民・産業の空間的分布に関する研究

助成を受けている日本学術振興会科学研究費・基盤研究（C)「感染症・災害を考慮した住民・産業の空間的分布と厚生水準に関する経済学的研究（2022 年度～2026 年度）の研究成果に関して、以下の学会発表を行った。

米本清「感染症・災害の外部性を考慮した都市の人口密度－コロナ禍における関東周辺データを用いた推計－」日本都市学会第 72 回大会、佐賀大学、2025 年 11 月 9 日

Yonemoto, Kiyoshi, “Optimal” Geographical Distribution of Population/Industries under Disaster Risks: Applying Portfolio Theory, the 72nd North American Meetings of the Regional Science Association International, Denver, USA, 2025 年 11 月 13 日

②空間経済学モデルと産業連関モデルの融合

東北大学の伊藤亮准教授と共同で進めている、空間経済学のモデルと産業連関モデルの関係についての研究や、その応用分析に関して、以下の形で公表した。

米本清・伊藤亮「一般均衡モデルの線形近似と交通改善の効果：北関東のデータを用いた試算」地域政策研究 28(4), 15-26, 2026.

③選好・効用の理論およびその地域経済学への応用に関する研究

以前から進めてきた選好・効用と人口移動・地域経済の理論に関する研究の最新成果を、以下の学会で発表した。

米本清「状態依存型効用関数の集積・分散への影響」第 39 回応用地域学会研究発表大会、富山大学、2025 年 11 月 30 日

④産業の集中・分散度と持続可能性に関する研究

製造業を含む各産業の集中・分散度と持続可能性に関する研究について、これまでの研究の補足として、以下の形で公表を行った。

米本清「従業者数に基づく産業の集積と分散に関する分析 産業小分類別集積指標を用いて」地域政策研究 28(1), 1-14, 2025.

⑤本学地域科学研究所関連の研究・業務

本学地域科学研究所では総務企画委員長を担当し、運営などに携わった。またリーダーを務めている「地域交通プロジェクト」では見学会や研究会を企画した。さらに「製造業プロジェクト」ではメンバーとして以下の書籍の一章を執筆し、出版された。

米本清「高崎から日本中の鉄道車両を支える－株式会社ユタカ製作所－」『地方製造業の進化 ものづくりデジタル化の経験』第 7 章、日本経済評論社（藤本哲編著)、2026 年

⑤院生・学生との共同研究など

2023-24 年度を中心に当時の院生と研究を進め、学術雑誌に投稿していた以下の論文に関し、本年度中に出版された。

山本竜也・米本清「MaaS 導入・活用の地域特性に関する研究－MONET Technologies のデータを中心に－」観光まちづくり学会誌 Vol.22, 3-13, 2025.

2　その他の事項

関東都市学会の理事（2015 年度-）を務めている。本年度から事務局長を務め、学会事務を中心的に担当している。
学内地域政策学会では本年度から会長となったため、学会運営を中心的に行っている。
環太平洋産業連関分析学会では企画部会長を務め、大会運営などに携わった。。
観光まちづくり学会の理事（2015 年度-）・学術論文審査委員会委員長（2023 年度-）を務め、査読依頼やそのとりまとめ、審査を引き受けている。
厚生労働省群馬地方最低賃金審議会委員・専門部会委員（2021 年度-）を務めており、本年度は会長となった上、前例にない大幅な改定を行うこととなったため、8 月は多くの時間を費やしてこの対応にあたった。
群馬県地震被害想定調査検討委員会委員を務めた。
本年度から群馬県明和町「地域 IT 人材育成推進協議会」を務めている。
複数の学会において大会等の座長や討論者を務め、投稿論文の査読を行った。
研究室の 2-3 年生学生を中心に、榛東村子育て支援イベントに参加し地域支援を行った。
学内の各委員会や入試関連の業務なども積極的に務めた。

3　次年度以降の計画・抱負

最終年度となる上述①のとりまとめや、出版段階に入った⑤「地域交通プロジェクト」の完了に力を入れたい。また③などをさらに進めたい。

着任後 15 年目となったが、引き続き講義内容などのアップデートを積極的に進め、学生のニーズに合わせるとともに、さらに質を高める。演習に関しても、より学生の満足度や教育効果が高くなるよう内容を更新する。